

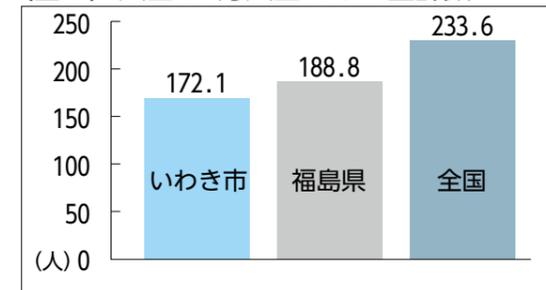
みんなので守る地域医療

〜将来にわたり安心して医療を受け続けられる環境を目指して〜

特集



〈図1〉人口10万人当たりの医師数



国の調査によると、本市の医療施設に従事する医師数は五百六十一人で、人口十万人当たりの医師数は七十二・一人となっており、全国平均の二百三十三・六人を大きく下回っています(図1)。医師の高齢化も

医師不足が続く本市の現状

〈表1〉中核市の医師の平均年齢

No.	都市名	平均年齢
1	大津市	44.8歳
	久留米市	44.8歳
	高槻市	44.8歳
4	前橋市	46.2歳
:	:	:
42	高崎市	54.5歳
43	いわき市	55.5歳

深刻で、中核市四十三市の中では、平均年齢が最も高くなっています(表1)。医師不足解消のための取り組み
市では、医師不足などを解消するため、医師を目指す学生を対象とした修学資金貸与制度の実施や、大学医学部への寄附講座・連携講座の開設などによる医師の招聘に取り組んでいます。

医師不足解消のための取り組み

みんなで連携して地域医療を守り育てる

しかし、依然として厳しい状況が続いており、地域医療を守るためには、市民の皆さんも含めた市全体で取り組んでいく必要があります。

そこで、安心して良質な医療体制を確保していくため、地域医療を守り育てる基本条例を制定しました(図2)。

将来にわたり、安心して医療を受け続けられる環境を守っていくためには、医師や看護師等の人的資源、病院や医療機器等の物的資源など、限りある医療資源を大切に活用していくことが重要です。健康づくりや適切な受診に努めるなど、地域医療を守るために、できることから始めてみましょう。

※図1・表1は、厚生労働省「平成26年医師・歯科医師・薬剤師調査」参考。

〈図2〉市地域医療を守り育てる基本条例



地域医療を守り育てる施策を総合的に推進し、将来にわたって、安心して良質な医療を受けることができる体制を確保することを目的に制定しました。
地域医療についての基本理念や、市、市民、医療機関等の役割を定めています。

私たちにできること

✓日ごろから健康管理を行う

自分の健康を守るため、栄養バランスの良い食事や適度な運動など、健康づくりに努めるとともに、健康診断などを積極的に受診し、病気の早期発見・早期治療に努めましょう。



健康診断を受診して体の状態をチェック

✓かかりつけ医を持つ

これまでかかった病気や、服用している薬などが分かっているかかりつけ医を受診することで、いざというときに、適切な治療を受けることができます。

まずは、かかりつけ医を受診し、高度な検査や治療が必要となった場合には、病状に応じた医療機関を紹介してもらいましょう。

救急車の適正利用を

9月3日～9日は「救急医療週間」、9月9日は「救急の日」です

救急車の出動件数は、年間1万3千件台と高水準で推移し、搬送者の約4割が軽症と診断されています。

救急車を本当に必要とする方のために、適正に利用しましょう。



症状が軽い場合には、休日当番医や休日夜間急病診療所を受診しましょう。詳しくは、23ページをご覧ください。

✓コンビニ受診を控える

コンビニ受診とは、所定の診療時間内に受診できるのに、軽症や自己都合で診療時間外に病院などを受診することをいいます。

コンビニ受診が多くなると、医師の過重労働などを招き、重症の救急患者などの容体が急変したときの対応の遅れにもつながります。休日や夜間の不要な受診は控えましょう。

お問い合わせ
地域医療課
☎22・7510